




氏名・職名	武藤 慎一 准教授	
キーワード	・費用便益分析, 公共政策評価 ・経済モデル分析	
最近の研究内容	空間的応用一般均衡(SCGE)モデルによる地域間交通整備の便益評価 応用都市経済(CUE)モデルによる都市内交通整備・都市政策の便益評価 http://sangaku.yamanashi.ac.jp/SearchResearcher/contents/85ED1D4F78C894A3.html	
研究者から一言	私は現在、公共事業評価や公共政策評価のための経済モデルを用いた費用便益分析に関する研究を行っています。こうした分野は、今後東アジアとの経済交流強化のための公共事業あるいは公共政策の評価が求められるなど、ますます重要となります。 しかし、現時点での研究は理論モデルの構築と簡単な数値シミュレーション分析による便益評価にとどまっており、より大規模シミュレーション技術開発が喫緊の課題となっていました。 企業の皆さまとの連携により、大規模な分析に耐えうる数値シミュレーション技術開発、すなわちパッケージソフト化等が行えれば、と考えています。	

<現在の研究分野>

□地域間交通整備の便益評価

山梨県を中心に、周辺都県との高速道路ネットワーク整備の便益評価を行っています。

□都市内交通整備・都市政策の便益評価

甲府都市圏の交通整備、土地利用規制などの都市政策の便益評価を行っています。

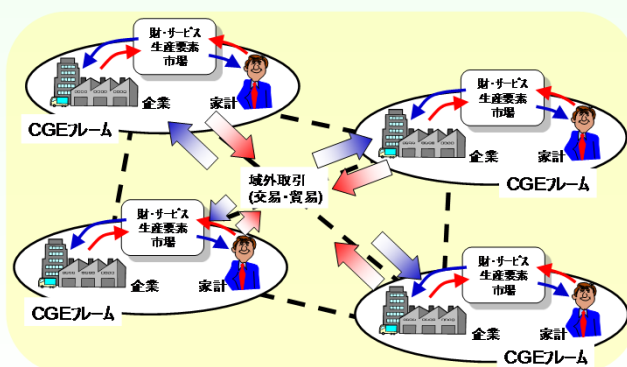
□農山村部の自然資源保全のための政策評価

農山村の有する公益的機能の価値を考慮した、自然資源保全のための政策評価を行っています。

経済モデルによる数値シミュレーション技術の実用化

現在、当研究室では公共事業評価や公共政策評価のための経済モデルとして、「空間的応用一般均衡(SCGE: Spatial Computable General Equilibrium)モデル」や「応用都市経済(CUE: Computable Urban Economic)モデル」を開発し、地域間道路整備、都市内道路整備、自然資源保全策など多種多様な公共事業・公共政策の便益評価を行っています。

これを、より広範な、例えば海外との経済交流の強化などにも適用していきたいと考えています。そのためには、大規模な数値シミュレーション計算が可能な技術開発が必要であり、この点で企業の皆様と連携させて頂きたいと考えています。具体的には、以下のような技術開発が必要であると思われま



- ・大規模経済データ処理技術開発
- ・均衡計算技術開発
- ・シミュレーション結果の表示システムの開発

適用できる製品・産業のイメージ

- 経済シミュレーション技術
- 公共事業・公共政策評価シミュレーション技術
- 環境・エネルギー政策評価シミュレーション技術
- 税・補助策評価シミュレーション技術

